

鳥取県 ● 日野町



金持神社

観光アイテム副読本



オシドリ



日野川くだり



滝山公園

鳥取県
日野町



TOTTORI PREF.
HINO-TOWN



ねうブラ

其の壺

金持神社で

金運を呼び込む。

世界にひとつ、
その縁起の良い名で
参拝客が絶えない
金持神社。



ご祭神と神社の由来

人は誰しも多かれ少なかれ抱いている、金運に恵まれたいという願望…。

そんな願いを叶え、運氣を上げてくれそうな縁起のいい名前の神社、それが「金持神社」です。「金持」と書いて「かもち」と読み、天の常立尊をご祭神とする全国でも数少ない神社で、国土経営、開運、国造りの神様をお祀りしています。

その創建は810年、出雲の神官の次男が、伊勢神宮参拝のためにこの地を通りかかったところ、お守りにつけていた玉石が急に重たくなり、この地に宮造りするよう神夢があったという伝承に由来。

またその名は、かつてこの地が「たたら製鉄」によって、黄金より勝ると言われた「玉鋼」を産し、鉄のことを「金」と呼んでいたことから金の採れる谷を多く持つ郷として金持と呼ばれたことに由来します。

開運祈願とお礼の絵馬

手水舎で心身を清め、90段のやや急な石段を登ってまずはお社に参拝。お社の横手から後ろ側に回ると、おびたしい数の絵馬が奉納されています。「宝くじに当たりますように」「お金に困りませんように」などといった願い事とともに、「競馬とロト6に当たりました」「宝くじに当たりました」



神社へ至る神明橋



数多くのお礼の絵馬

という、お礼参りに来た方の喜びにあふれる絵馬も。

金持神社札所(売店)の寄せ書き帳にも、お礼参りに来られた方々の喜びの声がたくさん記されています。

巨樹銘木の「ワ」も戴く

社叢には御神木とも言える大木がたくさん林立し、その中に「とつとりの名木100選」のうち、サワラとチャンチンがあります。チャンチンは、県内ここでしか確認されていない珍しい樹です。樹齢600年の巨樹から発せられるマイナスイオンを浴びると、いつそう運氣が高まります。



チャンチンの巨樹

開運グッズもいろいろ

日野町観光協会が運営する国道沿いの札所(売店)では、絵馬やお守りはもちろん、包んで願う黄色いハンカチや財布、金持米や金持味噌、金持酒など「金持神社」祈祷済みのいろいろな開運グッズを販売。



包んで願う黄色いハンカチ



金持神社の棚からばた餅

※札所(売店)限定販売
ばた餅の通信販売は
おこなっていません

なかでも人気なのは地元産のもち米とうるち米を使って一つずつ手作りした「金持神社の棚からばた餅」です。

新春の初詣

年の初めの金運向上祈願に参拝される方が年々増えています。札所(売店)は常夜祭として年越し営業をし、参道には石灯笼の明かりが灯されとても幻想的です。

財布お祓い

年に4回、使用済みの財布をお祓いさせて頂いています。ご希望の方は札所(売店)にてお申込み(有料)ください。お祓い後は、しるしとして「金の素」が送られます。



正月の獅子舞の奉納



財布お祓い

お問い合わせ

観光物産館 金持神社札所(売店)

Tel / 0859-72-0481

開所時間 / 10:00~16:00

金持神社公式ホームページ

<http://www.kanemochi-jinja.net/>

●開運グッズは公式ネットショップでの購入もできます。



札所(売店)



名もない路地に
迷い込むのも楽し

末から明治、大正と鉄山経
営で財を成した近藤家は主屋
に土蔵を配した格式ある商家
のたたずまいを見せます。



本陣の門



お茶屋おがた

近藤家のはす向かいの outlet
近藤(日野町公舎)・たたら
の楽校)や近藤家が建築・寄贈
した旧根雨公会堂(日野町歴
史民俗資料館)、山陰合同銀
行根雨支店の洋館、大正11年

また根雨の町では他の各
店でも女将さんたちがそれぞ
れの個性で町のご案内をする
「女将さんガイド」の取り組み
も始まっています。ぜひ町の人
たちとの会話を楽しみに、根
雨のまち歩きにお立ち寄りく
ださいね。

との会話が弾みます。

女将さんとの会話も楽し

名もない小さな路地、歴史
の迷路に迷い込む、そんな楽し
さをきくと感じて頂けることば
しょう。

の開業当時から変わらぬレト
口な木造駅舎の根雨駅なども
点在して、根雨は町全体がさ
ながら長い歴史のエッセンスを
蓄えた「歴史資料館」と言っ
てもいいほど。

■オーダーガイドもOK!

イベント催行以外にも、適宜ご希望の
日程のご案内もしています。(有料)
◆バスツアーの団体様には
お時間に合わせてのご案内も
可能です。(有料)

お問い合わせ

奥日野ガイド倶楽部
Tel&Fax / 0859-72-1350
E-mail / guide@okuhino-club.jp/
ホームページ /
<http://okuhino-club.jp/>



たたら生せんべい

しっとりとした食感でとても上品な味
わいの「たたら生せんべい」を「ねう
ぶ」のお土産に、ぜひ!



ちようこう

生田長江の碑(延暦寺)

生田長江は日野町員原に生まれ、明治
昭和初期、評論家、翻訳家などとして文壇
にその名を残し、平塚雷鳥らの「青龍」の
命名者としてもよく知られます。



其の式

情緒ある”小京都”、
出雲街道の宿場町、
そしてたたら歴史を刻み、
まち全体がさながら
”歴史資料館”

根雨宿めぐり (ねうぶら)

たたら楽校・根雨楽舎前

水の流れに心を癒す

それは第四十三代元明天皇
(645~72)の頃のこと、国
中の大干ばつの折に、当地で雨
乞いの祈禱をしたところ、甘露
のような雨がにわかによりだ
して草木の根を潤したことから、
「根潤う」転じて「根雨」と
なったというの言い伝え...
信じるかどうかは別にして、
町のそこかしこを幾筋も流れ
る用水路の水量と水質はオオ
サンショウウオも棲むほどで、
根雨はいまも変わらず、清ら
かな水の景観が美しく、瀬音
に耳を傾けながらの散策に心
癒されると、まち歩きに訪れる
人が年々増えています。



興味尽きない町の歴史

時代は下つて源平合戦の頃、
この地に幽閉された武将・長
谷部信連公が、京の都をなつ
かしんで造ったとされる祇園神
社や延暦寺、祇園橋は”小京
都”の情緒を醸しています。
さらに江戸時代となり、松
江藩・松平侯の参勤交代の宿
場町として在った頃の面影は、
本陣の門や軒を連ねる町家な
ど、町並みの各所に見られ、幕



祇園橋と祇園神社の社叢

其の参

峠の古道に

先人の足跡を探す

出雲街道探訪



何気ない景色の中に
遙かな歴史が息づく

中国山地を横断し、出雲から姫路へと至る旧街道、出雲街道。その道は日野町の南北を貫いて、二部宿からは間地峠を越え、根雨、板井原に宿

を取り、美作国へは難所の四十曲峠を越え、江戸時代には松江の松平侯の参勤交代の道としてありました。

またこの街道は、出雲大社や栄華を誇った大山寺への「参詣の道」、たたら製鉄を支えた「鉄の道」、中海でたくさん獲れた鰻を京都・大坂へと急送

する「流通の道」でもあり、峠を越える古道の何気ない風景の中にそんなかつての歴史が今なお息づいています。

近年のウォーキング、そして古道ブームに押されて、出雲街道を歩きたいという人が徐々に増えつつあり、奥日野ガイド倶楽部がそのご案内をしてい



杉林の奥には「たたら跡」
その証拠が「カナクソ」



古民家の囲炉裏の間

歩いて学ぶ、ふたつのコース

人気のコースは根雨駅から間地峠までを歩く初心者向けコース。片道わずか3km、新緑や紅葉が存分に楽しめる手軽なコースですが、その途中には渡し場、搬送するウナギを休ませたという「鰻池」、たたら場など、興味深いスポットが点々とあります。

健脚向けとしては、片道をJRで移動することを前提に、溝口宿、二部宿、根雨宿へと至る約16km(所要時間約6時間)のロングコースの設定も可能です。

古民家沙々樹でひと休み

またかつて当地の庄屋を務めた佐々木家の築百八十年の囲炉裏のある古民家での見学と休憩もプログラムに組み込まれており、参加者にとってはこの上ないサプライズ。なつかしい癒しの空間でおくつろぎ頂いています。

■オーダーガイドもOK!
イベント催行以外にも適宜ご希望の日程のご案内もしています。(有料)
◆バスツアーの団体様にはお時間に合わせたのご案内も可能です。(有料)

お問い合わせ
奥日野ガイド倶楽部
TEL / 0859-72-1350
E-mail / guide@okuhino-club.jp/
ホームページ /
http://okuhino-club.jp/



紅葉を歩くも楽し



ウナギを休ませた「鰻池」



舟場橋の上で解説中

ます。

地元で言う「げなげなばなし」を含め、さまざまな秘話を織り交ぜたガイドの巧みな話術に想像力をかき立てられ、きつと大名行列が通った往時が甦り、お殿様気分を味わえることでしょう。

注* げなげなばなしとは「げなは」「だそうな」という意味の方言で「げなげなばなし」とはあまり根拠が明らかではない噂話、ちやうとマユバナ話しのことを言います。

【MEMO】出雲街道
出雲街道の区間は一般的には姫路から松江までの約210kmとされ、中国山地を越えて古代日本の二大中心地、大和と出雲を直線的に結び、日本の歴史上、国土軸としてはとても長く、また最古の部類に入る街道だと言われています。

参勤交代は総勢約650人で、松江、江戸間を約22泊23日を掛けての旅でした。

其の四

日本の近代化を支えた

「たたら」を謎解く。

地球は「鉄の惑星」

「たたら」のお話の前に、「鉄」について少しだけ……

人類は大昔から、強くて加工しやすい「鉄」を利用して文明を築いてきました。それは地球に鉄が豊富にあったからです。しかし地表にある鉄は酸素と化合した「酸化鉄」であって、そのままでは使えないので還元反応によって酸素を取り除く作業つまり「製鉄」を行

う必要がありました。

現代の製鉄では、鉄鉱石を原料、コークス（石炭の加工物）を燃料として用いますが、鉄鉱石や石炭が少ない日本ではかつて、「砂鉄」と「木炭」を用いた

独自の製鉄法「たたら」で鉄を作ってきたのです。

MEMO
鉄は地球の質量の約3分の1を占めますが、重いため大部分は地球中心部に沈んでいます。ちなみに酸素は地球の質量の29%を占めます。

たたらの中心地、奥日野

奥日野（日野・日南地域）でも昔からたたらが盛んに行われてきましたが、江戸時代から明治、大正時代にかけては、良質の砂鉄とゆたかな森林に恵

現代にも活きる

近藤家のたたら経営学

幕藩時代、出雲では許可制の下、鉄師は大いに藩の庇護を受けてきたのに対し、伯耆国では自由にたたら操業ができ、大小の鉄山師が割拠して鉄の生産を競いましたが徐々に淘汰され、最後まで地域の経済活動の根幹を担ったのが大鉄山師・近藤家でした。

「たたら」で作られた鉄はとても良質ですが、砂鉄は土の中にわずかに含まれるだけ、木



近藤家の一族



たたら楽校

栄華の記憶を

たたら場に探す

1回の操業に、砂鉄と木炭をそれぞれ14、15トンも使うたたらでは、物資輸送の面から、木炭の原料となる照葉樹が豊富にある所に「たたら場」を設けなければならず、周辺の森林を伐採し尽くしたら別の場所に移動、30年くらいたつて樹木が成長すればまた元の場所に戻る……というローテー



都合山たたら高殿模型

炭は広大な山林と樹木が必要で、調達に多くの人手を要し、採算性が悪く、幕末から安価な西洋鉄が流入し始めると、やがてその火が消える運命にありました。

しかし当時、郡内3万人以上もいた人々の生活を支えるたたらをどうやって持ちこたえさせるか、近藤家当主たちの苦難の戦いがありました。「たたら楽校」ではそんな近藤家の「たたら経営」について、詳細に解説しています。



都合山たたら遺跡入り口



たたら楽校

たたら楽校（根雨楽舎）入館無料

開校日／土日・祝日（4月～11月）※12月～3月は休校します。

開校時間／10:00～16:00

問い合わせ■伯耆国たたら顕彰会

Tel／0859-72-0249（日野町商工会内）

シヨンが必要でした。長い年月の間には奥日野のあちこちに大小のたたら場が設けられ、現在日野郡内には200以上の遺跡が確認され、日野町内にも数多く見ることができ

中でも学史的にたいへん貴重な「都合山たたら遺跡」は「たたら街道」のウォーキングで訪れる方が年々増えています。

◆舟場山たたらは6頁を参照
◆都合山たたらは16頁を参照



鉄山師 近藤家



たたら楽校